

# バリアフリー ムーブメント

Vol.32

“いざ”じゃないとき知る知識！  
“いざ”というとき引き出す知識！

バリアフリーな社会を生きるため、  
必要なことを先取りしよう！

「今回のテーマは『共用品の配慮、あなたはどのくらい知っているか。』」

既存の製品をより多くの人が使いやすいようにしてくれるモノ、今まで使いたくなかったものを使いやすくなるためのモノ等、これらからどんどん増えてくるバリアフリー化された製品や商品を紹介しているこのコーナー。

今回は、共用品の配慮が、これまで知られていなかった、関西・関東エリアにおける調査の結果を報告する。

(財)共用品推進機構 森川 美和・山本 修

しかし、電話に凸凹が付いていることを知っている人も答えた方々で、付いている理由を知っている人はあまり多くない。電話の5番に付いている凸凹は、目の不自由な人が電話をする時に、数字の中心を知る上でとても便利な配慮であるが、目の見える人達でも、暗がりや数字が見えない時に、凸凹は触って分かる印となる。ビールの缶子については、何が付いているかという凸凹は何となく分かってはいたが、まさか誤飲(ビールやお酒とノンアルコール飲料)を防ぐ印だとは知らなかったと言った人が多かった。さらに関西エリアでは、牛乳パックの切り欠きや、家庭用ラップ側面のWマークについても、認知度を調べた。

また近年、日本で開催される福祉機器展において、学生の来場者が多くなり、アンケートの回答率も高い。共用品について小さい頃から知ることが多かったと思われる人は、回答者の中で、小学校や中学校に通う子どもの人達や、回答者の半数が小学生のいる方々から、子ども達が授業で、共用品の知識を持って取り組んでいるという話も多かった。

子ども達は、いろんな場面で共用品の配慮を感じている。

共用品推進機構は、展示会での普及とは別に、幼児や小学生にも共用品を伝える活動を行っている。

子ども達に伝える活動を始める前、幼稚園や保育園にはまだ共用品の配慮などを伝えるのは難しいのではないかと、意見が多くあった。

しかし実際に活動を開始してみると、3歳〜7歳の子どもの間は、日常生活を送る中で、その子らしい視点で、色々なものに疑問を持ち、実際に触れ、感じ取っていることが多かった。

また、子どもや手話など、障害のある人達のコミュニケーション手段についても、凸凹は、ちゃんちのエレベーターを見た「凸凹は、目の見えない人が手で読む本にもあるよ」、「耳が聞こえなくても(両手)耳を押さる動作をして、手でお話できるんだよ」、「なご、個々の視点で感じているよ」と、前述のエレベーターの点字の話をしてくれた女の子の母親は、「自分は全くエレベーター凸凹が付いていることに気が

バリアフリー社会の実現に努める(財)共用品推進機構は、今年関西・関東エリアで開催された展示会に共用品を出展し、ブースに登場してくださった方々に、共用品の認知度やこれからの普及に対する意見や感想等を聞いた。



「バリアフリー 2005」展示風景

## 代表的な共用品の配慮

### 「シャンプーのギザギザ」を知っている、約7割

障害者・高齢者等にも使いやすい製剤(共用品)の代表的なものとして、「シャンプーのギザギザ」がある。シャンプーにギザギザが入り

にはじまるが、一般の人も洗髪時には目を閉じることから、だれにとっても分かりやすい配慮として普及してきた。また電話の5番に付いた凸凹号については、関西・関東エリア共、約6割の人が知っている。ビール缶やワインに付いている凸凹については、関西エリアでは5割、関東エリアでは5割弱が知っていると言えた。



「国際福祉機器展 H.C.R. 2005」展示風景

付がなかった。いつ子どもが見つけたのか分からない。でもこんなことに気付く子どもも育つてくれたらいい」と話す。子ども達は大人の気付かないところや、色々なものを見て吸収している。共用品には家電製品、文房具用品、住宅設備、乗り物等がある。日常生活の中に、たくさんある共用品の配慮に気付くことはあっても、なぜその配慮が付いたかについては、調べたり考えたりすることは少ない。使いやすさを感じたことで、これは何の意味があるのだろうかと思うことも、少し考えてみる時間を持つてみるのはどうだろうか。

